

平成29年度 大学院医学研究科
基礎臨床共通講義Ⅱ-医科学研究特論-(日程表)

● 医科学研究特論

平成29年6月16日改訂

No.	講 義 日	タ イ ト ル	担当教員	専門分野	講 義 内 容	会場
1	H29.04.24(月) 17:30～19:00	(春季) 研究報告会			研究課題、背景、目的、方法、結果、学位論文完成までの予定を含めた学位論文進捗状況の報告 (H29年3月及びH30年3月修了予定者)	A
2	H29.05.24(水) 18:00～19:30	研究奨励賞報告会			[研究奨励賞]とは、本学に所属する研究者(医学部教員)が実施した研究において、特に優れた業績であると認められた研究に対して授与される。 受賞者は、受賞講演として[研究奨励賞報告会]で発表を行う。	C
3	H29.06.05(月) 18:00～19:00	[イブニングセミナー] MRIで心臓をみる	横山 健一	放射線医学	心臓MRIは最近の技術の進歩により虚血性心疾患や心筋症などのさまざまな心疾患で臨床応用が進んでいる。本講演ではその撮像技術の進歩や最新の研究動向をお伝えする。	A
4	H29.07.05(水) 18:00～19:00	[イブニングセミナー] 中心静脈穿刺をめぐる諸問題	徳嶺 譲芳	麻酔科学	中心静脈穿刺は、現代医療になくはない手技でありながら、同時に「致命的合併症を起こす危険手技」と見なされている。歴史を辿りながら、中心静脈穿刺の問題点を探り、安全への打開策を模索する！	A
5	H29.07.13(木)	診療に広がる遺伝医学	市川 弥生子	神経内科学	診療において、診断ばかりでなく、治療方針の選択においても遺伝子検査が行われる時代となった。本講義では、臨床遺伝学的アプローチについて概説し、国際標準の家系図の書き方についても学習する。	A
6	H29.07.25(火)	かぶれにおける皮膚角質水分量的重要性	水川 良子	皮膚科学	近年、アトピー性皮膚炎の発症に保湿剤外用が予防的効果のあることが報告されている。マウス接触皮膚炎モデルを用いて、皮膚角質水分量の増加が、炎症反応を抑制する機序を考察する。	A
7	H29.07.27(木)	脳梗塞治療の進歩と今後の展望	海野 佳子	脳卒中医学	脳梗塞急性期の治療はこの20年で進歩している。特に最近数年の、パラダイムシフトと言われるいくつかの話題について概説する。	A
8	H29.09.22(金)	生活習慣病の疫学	吉田 正雄	社会医療情報学	わが国で実施されている大規模疫学研究を実例に、疾病(主にがん、循環器疾患、脳血管疾患)の発症リスクと予防について概説する。	A
9	H29.08.25(金) 講義日程変更 H29.09.29(金)	神経障害疼痛ラットの行動観察 臨床家としての観点から	森山 久美	麻酔科学	臨床の傍ら基礎研究を続ける日々について、臨床家が研究をすることの意味について、お話しできればと思います。	A
10	H29.10.31(火)	(秋季) 研究報告会			研究課題、背景、目的、方法、結果、学位論文完成までの予定を含めた学位論文進捗状況の報告 (H29年3月及びH30年3月修了予定者)	A
11	H29.12.07(木)	症例からはじまる高齢者摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎のメカニズム解明と産学連携まで	海老原 孝枝	加齢医学	1症例からはじまった、誤嚥性肺炎メカニズム解明および予防戦略確立に至った経緯を紐解き、基礎研究に基づいたトランスレーショナルクリニカルリサーチを講義する。	A
12	H29.12.11(月)	カルシウムポンプの活性調節因子について	山本 幸子	分子機能生化学	カルシウムポンプは、細胞内Ca ²⁺ の輸送タンパクで、多様な細胞機能の発現に関与する。近年注目される、このタンパクの活性調節因子を紹介する。	A
13	H30.02.14(水)	放射線治療における問題点	戸成 綾子	放射線腫瘍学	医学の進歩により様々な条件下で放射線治療を実施する機会が増えた現状での問題点を検証検討する。	A
14	H30.02.15(木)	百日咳菌の病原性発現機構と現行ワクチンの問題点について	花輪 智子	感染症・熱帯病学	成人の百日咳菌感染症の増加は現行のワクチンの限界を明らかにした。その問題点と新たな予防法開発に向けた研究について紹介する。	A
15	調整中					
16	調整中					

講義時間： 18:30～20:00(指定のない場合)

会場A：基礎医学研究棟3階 会議室

- ・ 受講確認： 講師が受講確認を行います。

会場B：看護・医学教育研究棟1階 PC室

受講確認と併せて、講義終了後、アンケートの提出を以って受講したと認めます。

会場C：講義棟4階 第5講堂

● 公開論文発表会

- ・ 日程等は、医学研究科HPにより逐次公表します。
- ・ 参加1回で共通講義Ⅱを1コマ受講したものとみなします。但し、2コマを限度とします。
- ・ 出席確認として、公開論文発表会「参加者名簿」に記載が必要です(記載が無い場合、受講したと認めません)。

● 特別講義(特別講演会)及び、イブニングセミナー

- ・ 日程は、医学研究科HPにより逐次公表します。
- ・ 参加1回で共通講義Ⅱを1コマ受講したものとみなします。
- ・ 出席確認として、特別講義(特別講演会)「参加者名簿」に記載が必要です(記載が無い場合、受講したと認めません)。